



自ら企画した商品を売る糸満小学校の6年生ら  
 27日、糸満市役所

# “新特産品”で糸満PR

## 糸満小6年生 自ら企画し販売も



【糸満】糸満市立糸満小学校の6年生52人が27日、自ら企画し、企業・個人の技術協力を得て製造した菓子類や、ポストカードなどの小物を市役所ロビーで販売した。同校授業の一環。実業高校による同様の商品開発・販売はあるが、小学校における取り組みは珍しい。

児童らは「総合的な学習」の授業で、「糸満小発2021 糸満の未来をデザインする」のテーマで、地元の伝統行事や歴史、産業などを学習。その成果として、地域活性化のアイデアを12班ごとにまとめた。今回はこのうち特産品開発の企画の中から、地元

の農産物を使用した「マンモスタルト」「マガーカリン トウ」や染め物、キャラクターグッズ、ポストカードを販売。資本金は、児童らが製作した陶器を学校行事の場で販売するなどして捻出された。

タルトを販売した新垣麗央菜さんは「マンモスの名前は、糸満小のガジユマルの木に由来している。糸満小が有名になり、多くの人に糸満を訪れてほしい」と語った。

児童らはそのほかの企画で、市内史跡の世界遺産登録や、漁師まち糸満をPRする観光プランなどを提案。児童からの提言書も市教育委員会に渡された。